掛川型地域包括ケアシステムの発展に向けた生活支援コーディネーターの配置

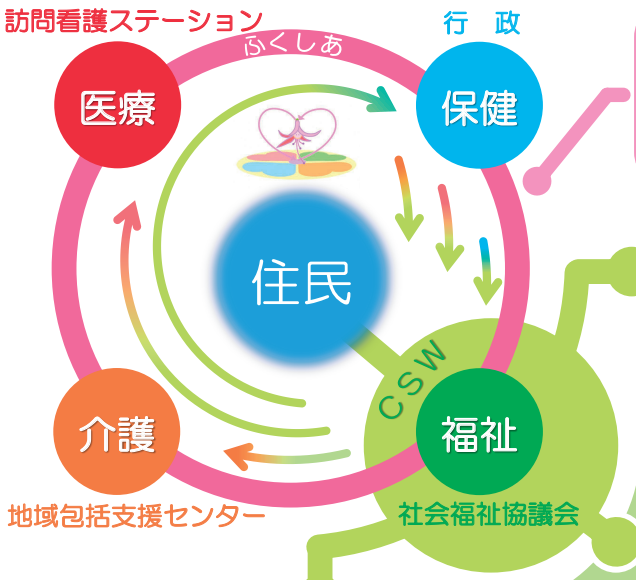
掛川型全世帯型地域包括ケアシステムの核となる掛川市地域健康医療支援センター「ふくしあ」にコミュニティソーシャルワーカーと兼務する形でSCを配置し、あらゆる人たちと協働しながら活動を展開している。

掛川市

掛川型地域包括ケアシステムの発展に向けた生活支援コーディネーターの配置

目的　人生１００年時代を迎え、満足感のある人生を送ることが求められる中、個人と社会を支える地域福祉の重要性がますます高まっている。市民生活の充実に向けて地域福祉をさらに発展させるため、ふくしあ配置のコミュニティソーシャルワーカー（ＣＳＷ）に生活支援コーディネーター（ＳＣ）を兼務させ、地域を重視した掛川型地域包括ケアシステムの発展を図る。

背景　全国的にも地域包括ケアシステムの構築が必要とされる中、掛川市では２０１０年から掛川型地域包括ケアシステムの核として掛川市地域健康医療支援センター「ふくしあ」を市内５カ所に設置してきた。年齢や状態による垣根のない総合支援を目指す中で、当初から医療や介護の連携だけでなく、地域福祉や生活支援が重要視されたことから、行政、地域包括支援センター、訪問看護ステーションとともに掛川市社会福祉協議会のＣＳＷを配置してきた。



ふくしあは、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、在宅医療支援、在宅介護支援、生活支援、予防支援を柱に医療、保健、福祉、介護の多職種連携により総合相談・支援をおこなう地域拠点

個 人　ー住民性の育成ー

自らの健康のために、
自ら意識して**参加・参画**

地域のサロン活動
老人クラブ活動
健康体操教室等の活動など

地 域　ー地域力の向上ー

地区まちづくり協議会や
地区福祉協議会における
小地域福祉活動の**運営**

見守りネットワーク活動
サロン活動
家事支援活動
移動支援活動（生活支援車両の運営）など

生活支援コーディネーター
ー総合支援体制の構築ー

地域のあらゆる人々と協力
住民の困りごと解決に向けて活動
住民の声を聞きに**出向き**、学習の機会と情報を提供し、**共に考え、創造する**

お互いの元気が活力になる活動
「来てくれてありがとう！」
「喜んでくれてありがとう！」

ＣＳＷがＳＣ兼務する意義　「ふくしあ」に配置したＣＳＷが、世代を問わず制度の狭間にある課題や複雑な課題をもった個別世帯に対しても、関係機関はもとより地域住民とのネットワークを活かして対応している。既に地域とともに活動するＣＳＷが目的を同じくする生活支援コーディネーターを兼務していくことは掛川市にとっては至極自然な展開であり、これを契機として、新たな活動主体の支援やネットワーク構築へ取り組んでいる。

今後の方向性　一部のボランティアや市民活動家だけが地域の福祉を考える時代は終わりを迎えています。市民一人一人が、自らの健康を意識し、自身や家族、近隣者、知人に、介護・医療・福祉が必要になったとき、どのように生きていくか考えていくことが求められる時代です。
　けれど、それは一人で抱えることではありません。地域の中にいるあらゆる人たちと協働して解決していけばよいのです。そしてシステムには柔軟性が必要です。掛川市は、「生活の中で困ったことは『ふくしあ』へ」を合言葉に、市民とともに活動していきます。